

令和4年度秋田県放課後児童支援員認定資格研修 研修レポート抜粋

(誤字脱字等については校正しているため、原文と異なる場合があります)

県北会場

科目 ⑤児童期（6歳～12歳）の生活と発達

- ◆ 児童期（6歳～12歳）の生活と発達について、発達課題とは社会に適応するために必要なものであり、課題を達成すると健康的な社会生活が近づくため、どんな課題がその子にあるのかを理解すると、心の特徴や問題が分かり、対応方法が見えてくるのだと学びました。本人の能力を培うことで勤勉性が生まれ、次のステージである青年期へのスムーズな移行が目指せると知り、放課後児童クラブでできること（グループでの役割を与えたり、褒めて認めたり）を実行していきたいと思います。
- ◆ 色々な学年が利用する放課後児童クラブで、それぞれの発達段階ごとにある課題を理解して、心の特徴や問題に合わせた対応ができるようになりたいと思いました。子どもがグループの中で役割を上手に果たせなくても、まずは褒めて認めてあげることが大事だと学びました。自分で切り替えができるように適度なフォローをしていこうと思いました。
- ◆ 人間の発達には、乳児期、幼児期、学童期、青年期、成人期、老年期と生まれてから死ぬまでの一生涯において、変化の過程があります。それぞれの発達段階ごとに課題を理解し、子どもの心の特徴や意味を理解することにより、適切な対応方法が見えてくるということを知りました。低学年は幼児期と学童期の切り替え時期で、時間やルール、人間関係になじみにくいことから、セルフコントロールの技法が必要になるということを意識していきたいです。
- ◆ 2人の学者が考えた理論から発達は色々な角度から見ていくこと、また、子どもの才能を発見して励まし、適切に指導してくれる存在がとても大切だと学びました。学童期の特徴の中では、具体的な対応例があり、放課後児童クラブの中で取り入れてみようと思いました。その中で、一人一人を褒めて、1つでも多くの成功体験を増やし、子どもたちが笑顔で家庭に帰っていけるように支援していきたいです。
- ◆ 子どもと大人の境界線を決めることが難しかったです。色々な人の意見を聞いて、人それぞれの考え方があると感じました。今回、専門的な用語が多かったですが、所々でジブリアニメの作品に例えたお話があったので、イメージしやすかったです。学童期の子どもが登場するアニメも意識をして観ることで、違った見方ができそうだと感じました。